

しまなみ農業だより

ダルマガエルの調査について

しまなみ農業指導班岩城駐在として、中川の後任で参りました岩城と申します。今月よりこのコーナーを担当させていただきます。よろしくお願いいたします。

6月になると梅雨に入り、水田や河川等の傍ではカエルの鳴き声も聞かれるようになってくると思います。昨日、県衛生環境研究所の職員と岩城島の水田を回り、「ダルマガエル」の生息調査の準備を行いましたので、今月はその話題を。

ダルマガエル

ダルマガエルはアカガエル科アカガエル属に分類されるカエルで、日本中部から山陽地方、四国の一部に生息する事が知られており、県内では大三島、伯方島に生息しているといわれていますが、生息環境の悪化などから個体数が減少しており、全国的にも絶滅が危惧されています。

トノサマガエルと外見が似ていることから、長らく混同されてきましたが、日本だけでなく東アジアも含めてカエルの進化過程を探っていくうえで極めて重要な存在です。

ダルマガエルとトノサマガエルの見分け方

ダルマガエル

- ・ずんぐりした体形をしています。
- ・背中に線がなく、黒斑が独立しています。
- ・お腹にも模様があります。
- ・「ギュー、ギュー、ギュー」や「ゲー、ゲー、ゲー」と鳴きます。



ダルマガエル

トノサマガエル

- ・スマートで跳躍力があります。
- ・背中に線があり、黒斑が重なっています。
- ・お腹は白く模様がありません。
- ・「グルル、グルル、グルル」と鳴きます。



トノサマガエル

生物多様性

近年、「生物多様性」という言葉が注目されています。「生物多様性」とは「生きものたちの豊かな個性とつながり」のことです。

地球の40億年という長い歴史の中で、生物は様々な環境に適応して進化し、3,000万

種ともいわれる多様な生きものが存在しますが、これらは一つの種ごとに個性があり、全てが直接的、間接的に支えあって生きています。

私たちの生活の中で当たり前と思っていることの多くが「生物多様性」により成り立っており、ダルマガエルのような絶滅危惧種を保護する活動は、私たちの生活とあまり関係がないように見えて、実は深い関係があります。

県の取り組み

県では、本種の回復に向けた取り組みとして、上島町などでダルマガエルの詳細な調査を実施しており、調査後はビオトープの設置や保護マニュアルの作成を予定しています。

今年は岩城島内の水田に、写真のようにダルマガエルの鳴き声を録音するためのICレコーダーを設置しましたので、調査にご協力のほどよろしくお願いいたします。また、水田などでダルマガエルを見かけたら捕獲などは行わず、衛生環境研究所もしくは農業指導班岩城駐在までご連絡ください。



水田に設置したICレコーダー